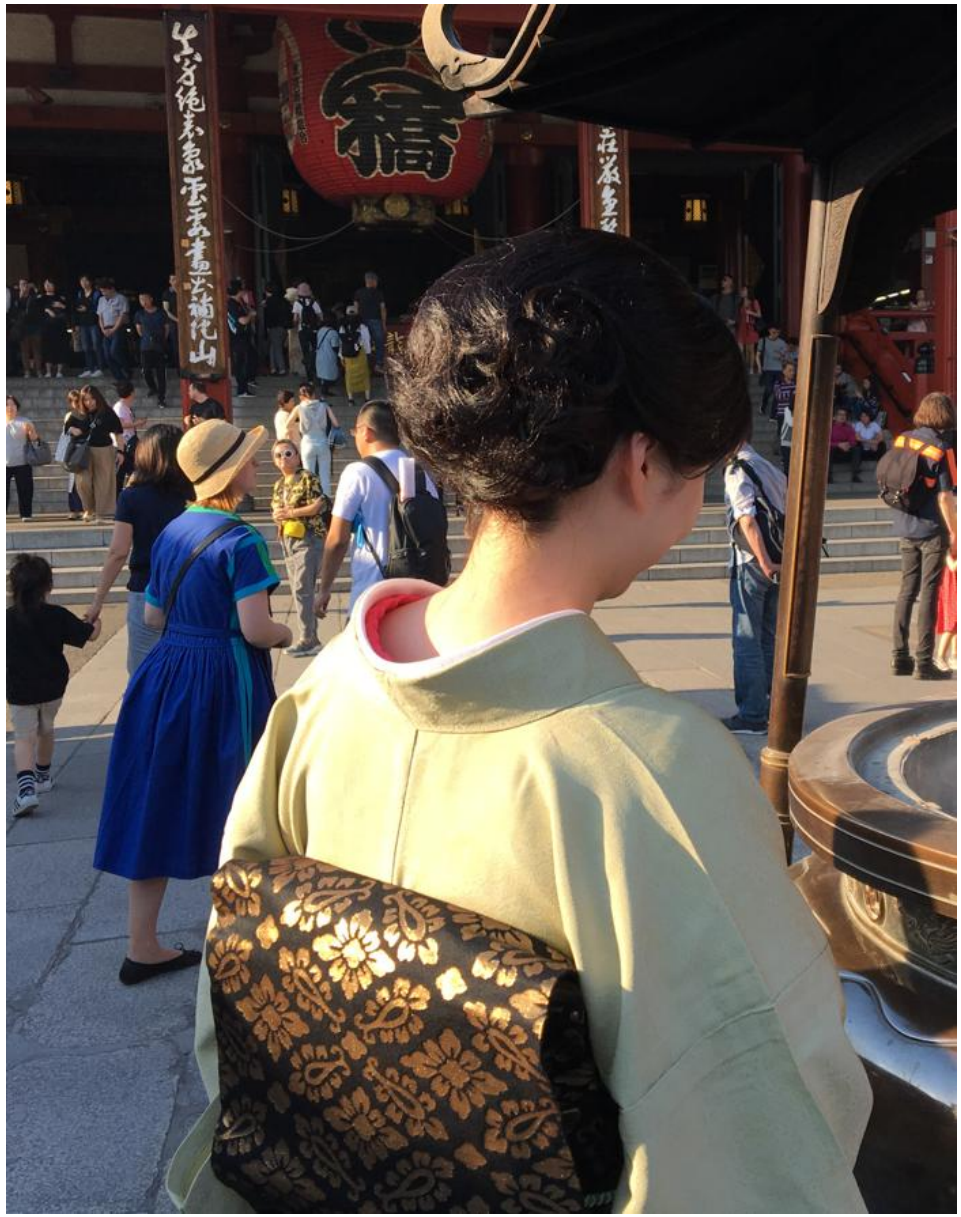
常香炉（じょうこうろ） 心鎮める 煙（けむ）り負（お）い
向かう提灯（ちょうちん） 志（し）ん橋（ばし）の女（ひと）

令和七年一月五日

大中臣正比呂



浅草寺の本堂と宝蔵門の間には常香炉があり、雨にも消えず線香の煙が立つ。その本堂前の天井には大提灯が吊るされ、浅草の花柳界の向こうを張って「志ん橋」とある。筆は湯島天神前に工房を構える、江戸文字書家の橘右之吉さんの作であるが、寄進は、料亭、待合茶屋、芸者置屋の三業を継承する「新橋組合」が務める。年も明け、筆者と同い年の此の書家に、彼の人の新しい千社札は、どんな江戸文字が良いか相談してみよう。